

華北山西省に於て採集された食糞金龜子虫類

中 根 猛 彦・白 旗 孝 太 郎

A list of coprophagous Lamellicornia (Coleoptera, Scarabaeoidea)
collected from Shansi, N. China.

TAKEHIKO NAKANE and KOTARO SHIRAHATA

既に十数年も以前のことであるが、著者の1人、白旗は軍務に服して中国に在り、その余暇に山西省に於て相当数の甲虫を採集した。その資料の一部は既に中根等によって記録されているが、本報に於てはその中の食糞性こがねむし類を一括して報告することにした。

以下採集された種名を列挙するが、産地の直後の()の内には頭数(ex.)及び採集年月日(ローマ数字は月を、39~41はそれぞれ1939~1941年を示す)を附記しておいた。標本は著者が所蔵する。

Family SCARABAEIDAE こがねむし科

Subfamily Scarabaeinae だいこくこがね亜科

1. *Scarabaeus sacer typhon* (Fischer, 1823)

陽城¹⁾(1 ex. 2. V. 41; 1 ex. 1. VII. 41); 廿里鋪(1 ex. 30. V. 41).

従来本邦研究者は *S. sacer* Linné 又はその変種 var. *peregrinus* Kolbe の名を以て満鮮地区から記録している。しかし、Balthasar (1935) は東亜産のものに *S. typhon* Fischer をあて、*peregrinus* はむしろその1型であろうと述べ、Janssens (1940) も之を支持したが、*typhon* を *sacer* の1 race (地方型) と考えている。

2. *Gymnopleurus mopsus* (Pallas, 1781)

(var. *sinensis* Balthasar, 1934?)

陽城¹⁾(7 ex. 24. IV. 41).

Balthasar は *mopsus* の亜種として華中・華北より *sinensis* を記載したが、Janssens は単なる1変種とみなした。山西産の標本は一応 *sinensis* の特長を示すが、甚だ微弱であって、いずれとも決定し難い。本種は朝鮮・満州方面に於ても普通にみられるものである。

3. *Catharsius molossus* (Linné, 1758)

陽城¹⁾(1 ex. 7. IX. 41); 長子門²⁾(1 ex. 24. VI. 40; 3 ex. VII. 40; 3 ex. 20. VII. 40).

上記標本は台湾産の *molossus* とほぼ同じのようであ

1) Yangcheng, 2) Changtzemen

る。本種は東西アジアに広く分布するが、山西からの記録は恐らく初めてと思われる。

4. *Copris ochus* (Motschulsky, 1860)

長子門²⁾(1 ex. VII. 40).

上記個体はやや小型の♂である。本邦産に比べて少しく光沢が鈍いようであるが、個体的なものかも知れない。以前から本邦のみならず、中国・蒙古・満州・朝鮮などから記録されている。

5. *Caccobius unicornis* (Fabricius, 1798)

長子門²⁾(1 ex. VII. 40; 11 ex. 5. VII. 40; 3 ex. 15. VII. 40).

本種も恐らく山西からは未記録と思われる。東南アジアに広く分布するこの種は台湾等にも産し、戦前より九州でも発見され (*C. yamauchii* Matsumura), 近年大阪市内で多数えられている。人為的にも分布しうるものかと思われる。

6. *Caccobius sordidus* Harold, 1886

長子門²⁾(1 ex. VII. 40; 1 ex. 6. IX. 40; 2 ex. 20. VI. 41).

東シベリヤ・満州・朝鮮及び北平から記録されており、かなり多い種であるが、山西の記録はまだないであろうと思われる。

7. *Caccobius shansicus* Nakane, 1951 (Fig. 1)

陽城¹⁾(1 ex. 14. VIII. 41).

本種は上記1頭をタイプとして中根が記載したもので、尾節板の後端が強く下面前方にひきつけられている点で特異である。頭楯中央は湾入し、その両端は歯状をなす。体長は4 mm.

8. *Onthophagus bivertex* Heyden, 1886

長子門²⁾(2 ex. VI. 40; 16 ex. 23. VI. 40; 2 ex. 30. VI. 40; 23 ex. VII. 40; 9 ex. 5. VII. 40); 捉馬村³⁾

3) Chomatsun, 4) Kiuchiakow

(1 ex. IV. 40; 1 ex. 16. III. 40); 陽城¹⁾ (1 ex. 20. VI. 40; 1 ex. 24. IV. 41; 1 ex. 14. VIII. 41); 酒家口²⁾ (2 ex. 29. V. 41).

本種は本邦に於て *O. shinanensis* Matsumura として知られたものであるが、中根 (1947) は之を *bivertex* Heyden の synonym とした。しかし *bivertex* に当ると思われる北鮮産の♂は体長の割に本邦産個体に比べて頭角が短く直立しているの、その後 (1956) 本邦産を亜種と認めるべきかも知れないことを示唆した。山西産の個体は総体に小型であるが、頭角の発達状態は体長の割からして本邦産に近似している。恐らく大陸に於ても地域的に変化がみられるものであろう。

9. *Onthophagus punctator* Reitter, 1893.

長子門²⁾ (2 ex. VI. 40; 1 ex. 16. VI. 40; 4 ex. 23. VI. 40; 1 ex. 4. VII. 40; 2 ex. 5. VII. 40; 4 ex. 15. VII. 40; 1 ex. 16. IX. 40); 捉馬村³⁾ (1 ex. IV. 40); 陽城¹⁾ (15 ex. 24. IV. 41; 2 ex. 4. V. 41; 1 ex. 14. VIII. 41).

朝鮮より記載され華北・満州に産する種で、多いものようである。台湾にも産する。

10. *Onthophagus viduus* Harold, 1875

長子門²⁾ (1 ex. 20. VI. 40; 1 ex. 5. VII. 40); 陽城¹⁾ (1 ex. 24. IV. 41; 1 ex. 1. V. 41.; 2 ex. 4. V. 41).

本邦 (兵庫) より記載された本種はその後、本邦各地・朝鮮・濟州島・華北・華中等から記録されているが、山西にも分布している。

11. *Onthophagus clitellifer* Reitter, 1894

陽城¹⁾ (12 ex. 24. IV. 41; 3 ex. 25. IV. 41).

東シベリア原産であるが、満州・蒙古方面にも多いようであり、北平等からも記録がある。

12. *Onthophagus rugulosus* Harold, 1886

採集地不明 (1 ex.).

本種ははじめ華北より記載され、その後朝鮮・中国・アッサム・トンキン・台湾等に広く分布することが知られている。

13. *Onthophagus tragus* (Fabricius, 1792)

陽城¹⁾ (1 ex. 14. VIII. 41).

朝鮮・台湾から記録はあるが、大体に於て南方に多い種で山西でえられたことは面白い。

14. *Onthophagus olsoufieffi* Boucomont, 1924

長子門²⁾ (1 ex. 9. VII. 40).

満州・朝鮮・シベリア・華北に分布し、本邦では上田附近など中部山地帯にのみ産する。

Subfamily Aphodiinae まぐそこがね亜科

15. *Aphodius (Plagiogonus) burgaltaicus* (Csiki, 1901)

長子門²⁾ (24 ex. 16. IX. 40); 高平⁵⁾ (5 ex. 15. X. 40).

上記個体は Ad. Schmidt (1922) の検索及び記載によれば、蒙古原産の上の種にほぼ一致するが、Balthasar (1938) が東チベットから *A. (P.) inflatus* なる近似種を記載しているの、多少疑がある。なお記載では頬部はあまり突出しないと記されているが、♂ではかなり強く横に突出している。

16. *Aphodius (Plagiogonus) shirahatai* Nakane, 1951. (Fig. 2)

捉馬村³⁾ (1 ex. 11. IV. 40).

本種も上記標本に基いて中根が記載したものである。頭楯前縁中央が湾入し、その両側に各2小歯を具える点で特異である。背面は黒く、翅端附近が赤褐を呈する。

17. *Aphodius (Aganocrossus) urostigma* Harold, 1862.

長子門²⁾ (2 ex. 30. VI. 40; 1 ex. 20. VI. 40; 1 ex. 23. VI. 40; 2 ex. 20. VI. 41; 1 ex. VII. 40; 2 ex. 14. VII. 40).

本邦に極めて普通の本種は中国からも以前から記録されている他、南方に広く分布する。

18. *Aphodius (Chilothorax) shansianus* sp. nov.

(Fig. 3)

捉馬村³⁾ (3 ex. IV. 40; 1 ex. 23. IV. 40; 2 ex. 12. V. 40; 9 ex. 13. V. 40).

本種は上翅に光沢を欠く点で東トルキスタン産の *bistriga* Reitter に最も近いが、上翅斑紋に相異がみられるので別種とした。

本種の亜属名には従来 *Volinus* が用いられているが、Janssens (1951) は上の名を用いており、*Volinus* をその synonym として扱っている。

19. *Aphodius (Aphodaulacus) nigrotessellatus* (Motschulsky, 1866)

捉馬村³⁾ (1 ex. 17. V. 40); 太行山脈泌泉⁶⁾ (4 ex. 4. XII. 39); 高平⁵⁾ (8 ex. 15. X. 40).

本邦に於て秋から春にかけて多い種であるが、北平・満州・シベリア・トルキスタンなどからも記録がある。

20. *Aphodius (Phaeaphodius) rectus* (Motschulsky, 1866)

5) Kaoping

6) Tsinhsien

捉馬村³⁾ (1 ex. III. 40; 4 ex. 7. III. 40; 2 ex. 25. III. 40; 6 ex. IV. 40; 4 ex. 17. V. 40; 1 ex. IV. 42); 長子門²⁾ (1 ex. VI. 40; 3 ex. 4. VII. 40; 1 ex. 6. IX. 40; 1 ex. 20. VI. 40).

本邦・朝鮮・満州・蒙古・中国・東シベリヤ等に広く分布する種であるが、山西に於ても *f. biformis* Reitter と共に採集された。この後の型ではかなり上翅黒色紋が消失する傾向が強いようである。

21. *Aphodius (Orodalus) pusillus* (Herbst, 1789)

捉馬村³⁾ (2 ex. IV. 40; 1 ex. 25. IV. 40; 1 ex. 12. V. 40; 5 ex. 17. V. 40).

広く旧北区に分布し、本邦に於て亜種 *rufangulus* Waterhouse を以て代表される本種は山西にも産するが、本邦亜種にやや近く、*f. coeni* Ad. Schmidt 乃至 *f. rufulus* Mulsant に相当する型を示している。

22. *Aphodius (Bodilus) sordidus* (Fabricius, 1775)

長子門²⁾ (2 ex. VII. 40; 5 ex. 1. IX. 40; 35 ex. 6. IX. 40); 捉馬村³⁾ (3 ex. IV. 40).

山西では陝西に広く分布する本種は *f. quadripunctatus* (Panzer) と共に採集され、後の型がやや多い。

23. *Aphodius (Bodilus) languidulus* Ad. Schmidt, 1922

捉馬村³⁾ (1 ex. IV. 40; 1 ex. 12. V. 40); 長子門²⁾ (1 ex. 23. VI. 40; 1 ex. 30. VI. 40; 3 ex. 5. VII. 40; 1 ex. 15. VII. 40); 陽城¹⁾ (11 ex. IV. 41; 7 ex. 24. IV. 41).

山西ではかなり多いが、従来日本・朝鮮・北平から知られていたものである。前種にやや似ているが、背面は細かい鱗肌状で光沢を失っている。

24. *Aphodius (Liothorax) sublimbatus* Motschulsky,

1860

捉馬村³⁾ (1 ex. III. 40; 1 ex. 19. IV. 40); 長子門²⁾ (1 ex. VI. 40; 1 ex. 23. VI. 40; 1 ex. 30. VI. 40; 1 ex. VII. 40; 5 ex. 6. IX. 40; 1 ex. 20. VI. 41).

本邦で以前 *A. lividus* (Olivier) と考えられていたものが本種であることは既に指摘されているが、朝鮮・満州・中国にも広く分布しているものようである。

なお本種の亜属名も *Nialus* が以前から用いられていたものを Janssens は上の名にしている。又 Balthasar (1946) は前胸背基部に微細ではあるが縁取りがあることにより *Nialus* より *Calamosternus* 亜属に移している。

25. *Rhyssenus germanus* (Linné, 1767)

捉馬村³⁾ (2 ex. IV. 40); 長子門²⁾ (2 ex. VI. 40); 陽城¹⁾ (1 ex. 27. IX. 41).

本種は本邦には産しないが、広く陝西に分布する種である。

Family GEOTRUPIDAE せんちこがね科

26. *Geotrupes (s. str.) stercorarius koltzei* Reitter, 1892

長子門²⁾ (1 ex. 23. VI. 40; 2 ex. VII. 40; 1 ex. 24. VII. 40).

山西の標本は北鮮・満州方面の個体にほぼ一致し、之らは陝西産 *stercorarius* (Linné) の上記型に属するものと考えられる。本型はシベリヤ・蒙古にも分布する。

本邦北海道より記載された *stercorarius* の亜種 *amoenus* Jakobson はその後本邦内ではえられておらず、多分大陸のものと思われるが、上記の型に近似したものであろう。但し、体背面は赤みのある紫色で、*koltzei* の色とはやや異なる。

(1957年6月29日受理)

Description of a new species.

Aphodius (Chilothorax) shansianus sp. nov.

Dusky yellowish brown; with front and side margins somewhat paler; pronotum dark or blackish brown; with sides yellowish brown; scutellum blackish brown; elytra bearing blackish or dark brown markings as follows: 4th interval with two oblong or elongate patches, the anterior one before middle produced inwardly on 3rd interval, the posterior one behind middle bifalcate and produced at apex on 3rd and 5th intervals, but often almost evanescent; 5th interval with an oblong or elongate one behind base, which is often entirely reduced; 7th interval with a vitta from behind shoulder to middle which is connected usually with a short vitta behind middle of 6th interval, the latter vitta often reaching outer branch of posterior discal patch on 5th interval; sutural margins also

blackish. Front femora and sides of metathorax broadly dark brown, abdomen brown, with median part and anal sternite paler.

Elongate-oblong, convex above, head and pronotum moderately shining, and elytra distinctly shagreened and opaque. Head finely punctured, with a gibbous elevation in middle, front margin slightly emarginate in middle and rounded on both sides, sides convergent forwards, cheeks small and a little produced beyond eyes, frontal suture feeble, with hardly perceptible elevations in middle and on both sides. Pronotum rather closely bearing punctures, which consist of fine and larger ones. Scutellum subparallel-sided at base, finely punctured, longitudinally elevated in middle behind, with apex pointed. Elytra finely striate, the punctures in the striae fine and hardly notching intervals, the latter convex, distinctly shagreened and rather sparsely bearing minute punctures. Abdomen and sides of metathorax weakly shagreened and bearing hair-bearing punctures not closely, metasternal plate smooth and glabrous, sparingly bearing fine punctures, with sharply impressed median sulcus.

Body length: 3-3.5 mm.

Locality: Chomatsun, Shansi, N, China.

Holo- (♂), allo- (♀) & paratypes: 9 ex. 13. V. 1940, 3 ex. IV. 1940, 1 ex. 23. IV. 1940, 2 ex. 12. V. 1940, K. Shirahata leg.

Allied to *A. bistriga* Reitter, but the body is paler in colour and the mode of elytral pattern is different.

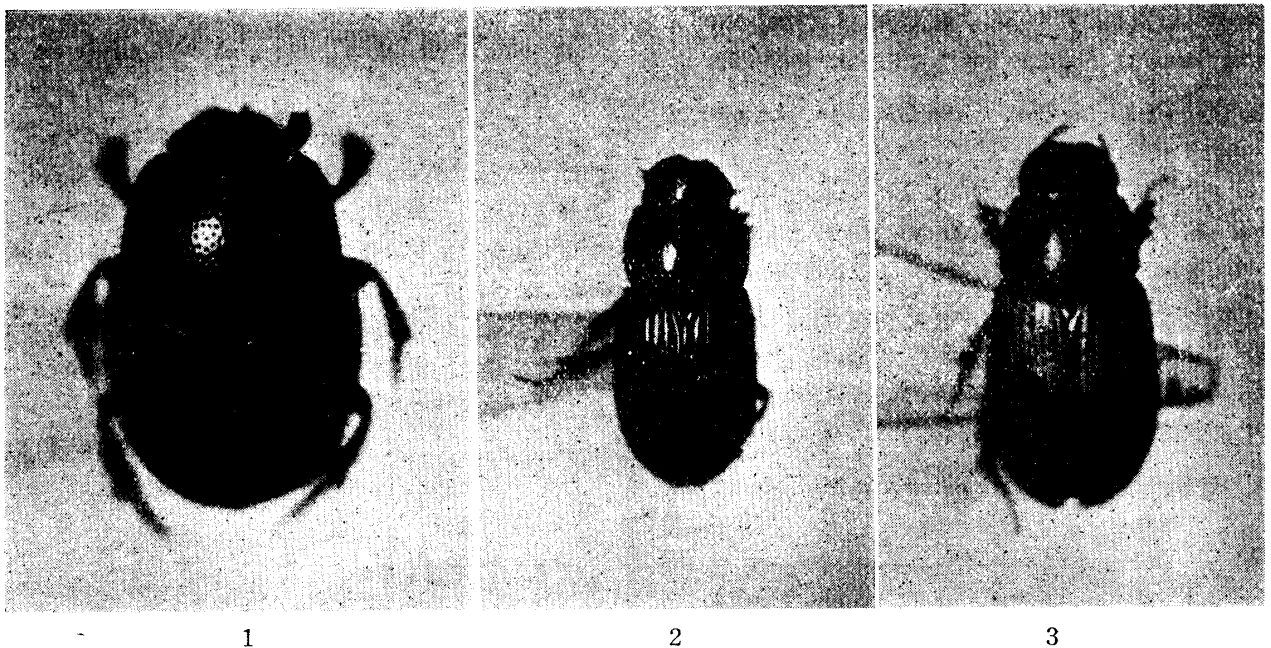


Fig. 1 *Caccobius shansicus* Nakane

Fig. 2 *Aphodius (Plagiogonus) shirahatai* Nakane

Fig. 3 *Aphodius (Chilothorax) shansianus* sp. nov. (Paratype)